

「浜松市の無形民俗文化財」教材用資料

ふりがな	くれ まつ の だい ねん ぶつ	担い手	遠州大念仏呉松組
名 称	呉松の大念仏	文化財指定	県指定 昭和32年(1957年)12月25日
場 所	中央区呉松町(初盆宅) 中央区庄内町721(宿蘆寺)	開催日	8月13日、15日
概 要	毎年8月に初盆の家で行われる遠州大念仏のひとつ。頭・双盤(そうばん)・太鼓(たいこ)等に合わせて念仏が唱えられ、お囃子(はやし)がこれに唱和する。初盆の家を双盤や太鼓を鳴らして回り、先祖を供養する。伝統的な要素をそのまま残し、先祖供養のための宗教芸能という大念仏本来の姿を継承している。		
起 源	起源は不明。遠州大念仏と同様、元亀3年(1572年(約450年前))の三方ヶ原の戦いの戦死者の霊を慰めるという説もある。地元では、曹洞宗舘山寺(そうとうしゅうかんざんじ)後方にある弘法大師が開いたとされる洞穴に弾誓(たいぜん)上人が留まり、大念仏を人々に教えたという説などが伝えられているという。		
演目・楽器	【行事順序】 頭先(かしらさき)と呼ばれる組の責任者2人が先導し、続く頭(かしら)2人のうち1人はひんどうろうという飾り提灯(ちょうちん)を持つ。さらに「遠州大念仏呉松組」と書かれた幟(のぼり)を持つ者1人、双盤(そうばん)2人、大太鼓4人、小太鼓2人、笛2人、摺鉦(すりがね)2人、参加者、後押し2人といった計20人ほどが順に並び隊列を組む。一行は道囃子(みちばやし)を奏しながら初盆宅へと向かう。庭へ入るときには「南無阿弥陀仏」を数回繰り返し、その間に回向(えこう=死者の成仏を願い、供養や法要を行うこと)する目的にふさわしい歌枕(うたまくら=死者に捧げる唄)を詠唱。最後に「願以此功德平等一切同慈提心往生安楽園」と結ぶ。庭入りをし、庭をまわりながらそれぞれの位置へつくと大念仏が始まる。「アラッセー」の音頭で高唱念仏が始まり、お囃子がこれに唱和する。 【使用する楽器】 双盤(1対)・・・直径1尺6寸の大鉦、大太鼓(2個)・・・直径2尺1寸、小太鼓(2個)・・・直径1尺1寸、笛(2丁)・・・竹製の横笛、摺鉦(2丁)・・・直径3寸 【服装】 黒の紋付に黒の三尺帯、頭に手ぬぐいをかぶり、あみ笠(烏追笠)をつける。白の足袋に草履、手には水色のテコをつける。ほとんどの遠州大念仏は天上が丸い菅笠を使用しているが呉松組は天上が三角の烏追笠を使用している。		
変遷 現在の姿	昭和18年(1943年)、太平洋戦争時の金属回収令により双盤を供出。戦後、再開。 昭和37年(1962年)頃 後継者不足により活動休止。 昭和40年(1965年)7月1日 庄内村が浜松市に合併。 平成7年(1995年)3月18日 長年の間途絶えていたが、自治会主催により保存会発会式を行い復活に向けて活動を始めた。 平成11年(1999年)8月13日 初公演(以後、毎年8月13日に初盆公演)。 平成14年(2002年)8月15日 庄内町 宿蘆寺施餓鬼にて公演(以後毎年公演)。		

●作成年月日／令和6年9月30日現在の情報

